

## 鳥羽市総合教育会議 会議録（要旨）

会議の名称	令和4年度第1回鳥羽市総合教育会議
開催日時	令和5年3月22日（水）16:00～17:00
開催場所	鳥羽市役所本庁舎 市長室
議題	1. 支援を必要とする児童・生徒の現状について 2. 鳥羽市における子育て支援の在り方について 3. その他
会議資料	【資料1】 いじめ問題に係る鳥羽市の状況 【資料2】 不登校児童生徒数・HARP 通級児童生徒数・虐待件数 【資料3】 令和4年度 個別の支援を必要とする児童生徒の状況 【資料4】 新たな子育て支援策について 【当日配布】 R2～R4 英検チャレンジ受検結果推移
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	0人
出席委員	市長 中村欣一郎、教育長 小竹篤、 教育委員：奥村楠治、浅尾美沙、中村和久、中島幸代
欠席委員	なし
事務局	[鳥羽市教育委員会] 岡本総務課長、山下学校教育課長、平賀生涯学習課長、 山田課長補佐、天田係長 [鳥羽市総務課] 濱口課長、中村課長補佐

### 開会・市長あいさつ

#### 1. 支援を必要とする児童・生徒の現状について

（教育委員会学校教育課長より【資料1】【資料2】【資料3】について説明。）

##### ○教育長

「東中学校へ統合したから不登校が増えた」との声も届いているが地元の声はどうか。

##### ○教育委員

元々不登校の傾向がある生徒がいる中で、統合して逆に学校が楽しくなった子もいれば、環境が変わることで不登校となった子もいると聞く。統合によるメリット・デメリットが顕れてきているが、総じて学校サイドはよく頑張っていると思う。保護者から「フォローが足りない」との声は聞こえてこない。近年、長岡地区において不登校生徒が増えてきており、長岡地区が元々（不登校の）傾向が強い地域であり、現3年生は特に多かった。支援やサポートはしっかりしてくれていたが、（不登校となる）根本的な原因は分からない。

##### ○学校教育課長

2年生の子が突然復帰（登校）できるようになった。ある程度自分の中でエネルギーを蓄積して登校を決断する子もいる。学校現場では「復帰させる」ことを目的とせず、登校するための「やる気」を蓄積させることに重きを置いて対応している。また、例え復帰できなくても、進路指導等はしっかり対応している。

##### ○市長

HARP や長岡教室に通わない子もいるのか。

##### ○学校教育課長

いる。

##### ○市長

どれぐらいいるのか。

○学校教育課長

(資料2により) 13人が(HARP及びながおか教室)に通級したということは、10人(23-13)人いることになる。ただ、不登校といっても50日欠席の子もいれば、150日欠席の子もいる。一概には言えない。

○教育長

学校やHARPとの関りを完全に遮断している子はいないのではないか。

○教育委員

小学生の中に学校やHARPには行かないが、長岡スポーツクラブに来る子がいる。様子を見ていても皆と仲良くやっているのに何故か学校には来ない。

○学校教育課長

完全に自宅に引きこもっている子は鳥羽市にはいないと思っている。ただ、別室登校の子はいる。

○教育長

小規模校にも不登校児童・生徒はいる。「大きい学校だから不登校になる子がいる」というわけではない。むしろ規模の小さい学校の方が深刻な不登校となる可能性が高く感じる。人間関係がリセットされないからではないだろうか。また、生徒指導上対応が難しい学校には、県の加配(増員)をもらっている。

○市長

地区懇談会においても「安楽島小学校の現状を知っているのか」といった意見もあった。

○教育長

他に何かご意見があれば。

○市長

今年鳥羽小と加茂小の子ども達から市政に対して提言があったが、タブレットをうまく活用した素晴らしいものだった。私の発言をタッチメソッドで記録し、発言の論点をみんなで共有していた。自分達の子供時代では考えられない光景だった。他市町の子どもの状況は知らないが、教育長が常々「鳥羽の子ども達はITに長けている」と言われている意味が分かった気がした。

○教育委員

学校訪問した時も、「プログラミングしてこういうゲームをつくった」と言われ見せてもらったが素直に感心した。ツールさえ備わっていれば才能を発揮できる子もいるんだと感じた。

○市長

こういった子達からするとユーザーが行っている画面編集なども簡単なのかもしれない。そういった才能は上手に伸ばしてあげたいと思う。

○教育長

鳥羽小と加茂小は(議会や行政との関りを)先進的に取り組んでもらっている。4月1日から「こども基本法」が施行されるが、こども達の意見を尊重することを重視している。これから中学校における生徒達の発言について、学級に、学校に、更には市や経済界に対して勉強しながらしっかりと意見を述べるができるよう、促していきたい。新設されたこども家庭庁がこの法律を所管していくので、しっかりと取り組んでいきたいと考えている。

## 2. 鳥羽市における子育て支援の在り方について

(教育委員会総務課長より【資料4】について説明。)

○教育委員

鳥羽市には俗にいう「僻地<sup>へきち</sup>」が多く移動の制限が多い。子育てしやすい市だと思っているが、お金が(移動の面で)余分にかかる場所だと思っている。例えば学校の統合にしても、地域によっては反対の声がある。結果、地域の声を重視して統合を先延ばししていく傾向が強い。しかし、子ども達が少なくなっていく中で先程教育長が言われた、「大きく開かれた教育環境」になることで解決してくこともある。

例えばこの前訪問した答志では、答志の中で成り立たないということがあったのだが、本土の鳥羽小学校に通うことで違う地域の子も達と交流するといったことになっている。こういった環境は大事だと思っている。統合しなくても、こういった別の選択肢によって、現状（いじめ）の解決がされているという事実が重要。ただ、離島の子だと船代金が別途必要となり、長岡や鏡浦の子だとバス代が必要となると、経済面で不平等に感じている。そういう意味で、先程（教委総務）課長が例として挙げた「市内公共交通機関フリーパス券」といった施策は欲しいなと思っている。三重県もSDGsを推奨しており項目4番目（質の高い教育をみんなに）といった項目があるのだから、資料4にある県の「みえ子ども・子育て応援総合補助金」の対象にもなるのではないか。（児童・生徒の）市内公共交通機関がフリーになることで、様々な波及効果が生まれると考えている。

○市長

例えるなら「敬老パス」みたいなイメージになると思う。子ども達が友達と遊ぶために船代やバス代が必要というのは、確におかしな話ではある。この補助金を活用できるか否か、またはどれぐらいの市の負担となるのかは担当部署を通じ県と交渉させてもらおう。

○教育委員

一例を挙げると、中学校のソフトボールで引っ込み思案で休憩時間に図書館にこもりがちだった子が球技を通じ、他の子と抱き合ったり喜びあったり、その子をよく知る地元の人達も驚くほど変化した。また、以前は挨拶を疎かにしなかった子が率先して挨拶するようになった。単にチームの強弱だけでなく、いい意味でその子達の変化を遂げる。そういった事例を知っているので、子供達が交流しやすい環境を我々ももっと率先して整えるべきではないだろうか。鳥羽東中に通っている生徒は（船の）定期券を持っているが、それ以外の小学生、例えば離島の小中学生は全員でも100人いない。金額的にも（市の負担は）驚く負担とはならないのではないかと。バス代が必要となる子供達を入れてもたいして変わらない。なんとか前向きに検討してほしい。

○市長

全員を対象とするのか、学年を限定するのか選択肢はいくつかあるが、限られた予算の中で施策実施に向けて検討はさせて頂く。

○教育委員

（長岡中が）統合する前でも後でも保護者の負担が変わらないようにするべき。また、市長が冒頭で「即効性のある施策」について述べられていたが、昨今の子どもの減少が著しい。中長期的視点も大切だが、そのスパンを見直してもいいのではないかと。私も子供が3人いるが、誰も残ってくれない恐れがある。こちらに残ってもらうための条件が揃っていない。そういった意味で即効性のある分かりやすい施策も必要。足場（生活基盤）を市外に築かれたら終わりなので、短と中・長期を入り交えた施策をお願いしたい。地元からもそういった意見をよく言われる。「市はこういったこともやっている」と返答できるとありがたい。

○教育委員

「鳥羽はいいな」と思えるような施策があると、「（地元）に戻るか」と思ってくれるかもしれない。人口減少対策にも繋がるのではないかと。

○教育委員

今市外に生活基盤をおいている人も本当は市に戻りたいと思っていると思う。ただ、今の生活基盤と鳥羽市を比較した結果、市外を選択せざるをえないのではないかと。お得感が感じられる何かがあれば結果は変わってくるのではないかと。

○教育委員

自分の娘の世代はやはり教育環境が充実しているか否かに重きをおく。分かりやすい施策を行うことで鳥羽市も変わると思う。

○教育委員

鳥羽市で子育てをする中で、子どもを産んでからの乳幼児の世代に対する施策はすごくいいと思う。保育所に入所できないこともなく、ゆったりといい時間を過ごすことができると思う。周りの人も優しい。ただ、子どもが大きくなるにつれ、行動範囲が広がり、塾や高等教育といったことが頭をかすめる

に伴い、今の環境に迷いが生じてくる。そういった時に国がよく「保育士」のことを取り上げるが、鳥羽市の場合はもう少し上の年齢が「いかに過ごしやすいか」といったことに重点をおいてはどうか。先程話題となったが、今の子ども達は少し離れた友達と遊びたいと思うと、親に送迎してもらわないと一緒に遊べない。結果、家でゲームをしたりして一人で過ごすことになる。そういった面を解消する意味でも「フリーパス」の施策は喜ばれるのではないか。

○市長

当たり前だが子育て支援というのは出産時から必要とされる。祝い金や支援金の交付、教育環境の充実、鳥羽で起業しやすい、鳥羽で稼げる環境づくりに力を入れていきたいと考えている。従来のように「大企業を誘致する」というのは、ある種他力本願であり、この「鳥羽市」というフィールドが持っている特徴を生かせる施策を行っていきたく思っている。市議会議員時代に「子育て支援」というと長野県が全国的にも有名だったが、各種の支援を行っていても、中学校を卒業すると村外にでていく。隣接する市に世帯ごと引っ越していき、結果、誰も残らないといった話を聞いている。昔、あれだけ全国から視察されていたところが結果的に上手くいっていないので、お祝い金などはその時は喜ばれるが、一過性で終わってしまうので、繋がっていく施策が必要と感じている。お金の支給だけでは結果がでないとは思っている。勿論、委員の皆さんが言われたことも大事であり、プラス「働き口」も大事ではないかというのが私の意見。「子どものフリーパス」というのは他市町村が行っている「敬老パス」とは違い、多聞にしてあまり聞かない施策でないだろうか。

○教育委員

昔と違い、今は学校の統合が大きく進んだ。だから統合のメリットがデメリットを少しでも上回ってほしいと思っている。先程、例を述べられていたが、それは他市町村からの移住を意識していると思うが、「元々いる人達が故郷（鳥羽市）に留まり、さらに他所からの移住が増える」といったことを目指す方がいいのではないか。増加を目指すのではなく減少の度合いを軽減させるイメージが大切。

○教育委員

人口が増加すれば勿論いいのだが、あくまで「プラスα」で考えた方が良く。統合をこれからも進めていくのであれば「フリーパス」施策は必要ではないか。

○教育長

子育て現役の委員の方からも他に意見を頂ければ。

○教育委員

3人いるので、正直言えば祝い金といった支援はありがたい。

○教育長

どの世代への支援が必要と感じるか。

○教育委員

高校生の子どもだと思う。中学生になる前にも（祝い金が）もらえると助かる。当たり前だが、子どもが育つにつれ、だんだんとお金が必要となってくる。医療費も中学生までは無料だが、高校生も対象になればありがたい。

○教育長

祝い金を支給する支援もあれば、給食費を無償とする支援もある。今、全国的には（全自治体中）約3割ほどが給食費無償となっている。今回の議会でも取り上げられた。この点について、あくまで個人の見解だが、毎月（給食費が）3千円或いは4千円安くなるよりも、入学時の祝い金を一律に支給する方が（保護者には）感謝されるのではないかと考えているが、皆さんのご意見はどうか。

○教育委員

生業で保険を取り扱っているが、学資保険で大学卒時に支払われると（保険契約者から）すごく有難がられる。子育ての節目節目にまとまった金額が振り込まれると非常に喜ばれる。

○教育長

給食費の無償化はいずれ国策として実施される時が来ると思う。だから市費を投入するのであれば、別の子育て支援策に投入するべきではないかと思っている。

○市長

家計支援として市として水道代金の免除を実施してきたが、あまり恩恵を感じて頂けなかったのかもしれない。

○教育委員

インパクトもそうだが、一律支援ではあまり印象に残らなかったのではないかと。口座引き落としだから定期的に通帳をチェックしている人でないと恩恵が分からないと思う。

○市長

話は変わるが、ランリュックの購入支援を教育長から提案があったのだが、私は採用しなかった。皆さんのご意見をお聞かせ願いたい。

○教育委員

ランドセルは正直高い。親の経済力の差も顕れてくる。あまり中間（の値段のランドセル）が選ばれない。

○教育長

「毎日小学生新聞」において、鳥羽の制服のことを記事にしてもらった。ベースになっているのは「隠れ教育費」。高校生も授業料が無償というが、実際はそれ以外も経費がかかっている。その軽減が必要ではないかと思っている。個人的に「ランドセル文化」は変えていくべきと考えている。（小学生＝ランドセルといった考えは）日本ぐらいではないだろうか。競うように高額なランドセルが必要とされ、しかも転用できない。確かに孫にランドセルを買ってあげることを楽しみにしている祖父祖母もいると思うが、購入できない家庭も存在する。こういった経済格差がランドセルを通じて顕現してしまう。制服もそうだったが、格差をなくすことで各家庭の負担を軽減したいと思っている。

○教委総務課長

調査したところ、京都府綴喜郡井手町でランリュック支給をしていて、入学生約40人を対象に転入者を含め現物支給をしている。値段も特大で1万2千円ぐらい。入学説明会の時に保護者に（ランリュック）引換券を渡し、希望の有無を確認せず指定の販売所にて交換するよう説明している。

○教育長

他にも茨城県で支援を行っている市町村があると聞いているが、「ランドセル文化」に一石を投じる必要があると思っている。実際に必要とする3歳或いは4歳になる子の保護者に意見を聞くことも大切。我々や教育委員さんもかつてはその世代の保護者だったわけだが、それより下の世代である今の世代の意見を聞く必要があると考えている。

○市長

地区懇談会を各地域で開催したが、残念ながらそういった世代の人達と意見を交わす機会がなかった。例えばランドセル支援をずとした場合、現物支給が喜ばれるのか現金補助が喜ばれるのか。

○教育長

現金支給では他のことに使用される恐れがある。ただ、保護者の意見も大切。

### 3. その他

（教育長より「R2～R4 英検チャレンジ受検結果推移」について説明。）